

NGO 相談員 出張サービス実施報告書

1. 出張サービスの概要

団体名：（特活）国際協力 NGO センター（JANIC）

出張者：事務局長 山口誠史

出張サービス企画名：「東日本大震災における NGO の役割と課題」

日時：2011 年 7 月 7 日（木） 午後 7 時～9 時（2 時間）

場所：NGO 福岡ネットワーク会議室

参加人数：15 名

2. 実施内容

東日本大震災発災直後から、多くの国際 NGO が東北の被災地に駆けつけて救援活動を実施した。国際協力 NGO のネットワーク組織である JANIC は、メンバー団体を中心とした NGO の活動を支援してきたが、まもなく発災から 4 ヶ月になる中、国際協力 NGO が行ってきた救援活動とその特徴を紹介すると共に、今後に向けた課題を提起した。

まず、国際協力 NGO が早い段階から活動を開始できたのは、①途上国における開発協力や災害救援の豊富な経験があったこと、②初動資金があったことが大きい。その上で、各 NGO はそれぞれが持つ専門性に基づいた活動、または災害ボランティアセンターなど地元への支援組織の運営サポートを行った。これらの活動は、NGO が途上国で実施している開発プロジェクトのアプローチである①オーナーシップ、②ニーズ・オリエンテッド、③キャパシティビルディングの重視など、基本的に同じであることが分かる。

こういった活躍の一方で、①説明責任、②本業の活動への影響、③資金、④中期計画と撤退戦略、⑤福島への取組みなどを検討した。現在、日本中で東日本大震災の被災者支援に注目が集まる中、NGO の本来業務である途上国支援が人手の問題や資金が集まりにくくなっていることから厳しさを増していること、またどのようなタイミングでどのように震災対応事業を収束させていくかを悩んでいること、特に事業の担い手になってくれる地元の組織が弱いことなど、どの国際協力 NGO も同じように抱えている課題について詳しく説明した。

3. 所感及び効果等

質疑応答の時間では、九州にいて何ができるかが参加者の一番の関心事であった。主催団体の FUNN では、震災直後に福岡から被災地に人を派遣するかどうか、激しい議論が行われたとのことだった。結局 1 人派遣するのに往復で 10 万円くらいかかるので、それであればそのお金を被災者に義捐金として送ったほうが良いということになったとのこと。被災地から遠く離れた九州でこれから何ができるかについていろいろな意見が出たが、講師からは、ボラバス派遣の検討、被災地で活動していて理念が共通の NGO を通しての支援な

どを提案した。

今回の講演会をきっかけに、福岡の人々が東日本大震災に少しでも関わりを深められることを願っている。

なお、事後のアンケートでは、以下のようなコメントをいただいた。

<アンケートの抜粋>

- ・ やはりボランティアとはいえただやりたいではなく、何ができるのか？ボランティアをして現地にもどのような影響があるのか？ボランティアをした後、そのことを踏まえてのビジョンがないと、国際協力と同じようにやりっぱなしではいけない、とはいえ、緊急の場合はそのように言ってもらえないのでそれはプロに任せる。やはり、今私たちができることは福岡でできることをやっていくのみだ。
- ・ 本日の講演会を通じて、震災の地元事情、意識など生の情報を聞く事が出来て良かった。同時に今後における課題についても考えさせられる部分が多く、簡単には解決策が見つけれないが、以降についてもどうすれば良いか考え続けたいと思う。
- ・ NGO(JANIC)の幅広い活動が参考になった。
- ・ NGO の経験から、オーナーシップ、キャパシティビルディング、引き続きを考える事の大切さ、など大事な視点を言葉にされていて、理解が深まった。ありがとうございました。
- ・ 国際協力 NGO としてどう直接関われるのか、その意義について（定款の解決等）疑問に思っていたので、そのことが明確に理解できた。NGO としての実際の活動、その問題点等も勉強になった。今後活かしていきたいと思う。
- ・ 震災支援の NGO、ボランティアについての話はよく聞くが、NGO の人たちの話を聞く機会があまりなかったので参考になった。NGO の行動原理の紹介が興味深く、また NPO に不足している観点があったような気がする。「撤退戦略」「キャパシティビルディング」途上国支援の行動原理が今回の震災支援を考えるうえで大きなヒントとなり得るのだと感じた。

以上



2011年7月27日

NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

1. 企画名： 国際教養科3年生を対象とした総合学習
2. 開催日時： 7月 12日 13時 15分～ 14時 45分 (90分)
3. 主催者： 光ヶ丘女子高等学校
4. 場 所： 同高校
5. 出張者： (正・副・その他) 特定非営利活動法人 難民を助ける会 林 曜子
6. 参加者： 同高校国際教養科生徒101人、卒業生、教員

7. 実施内容：

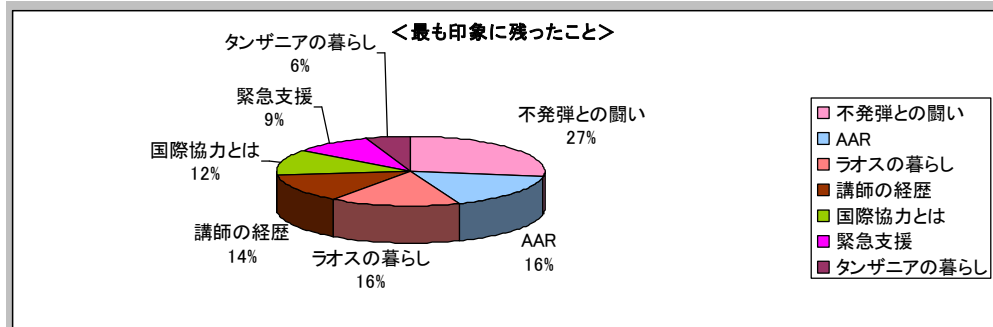
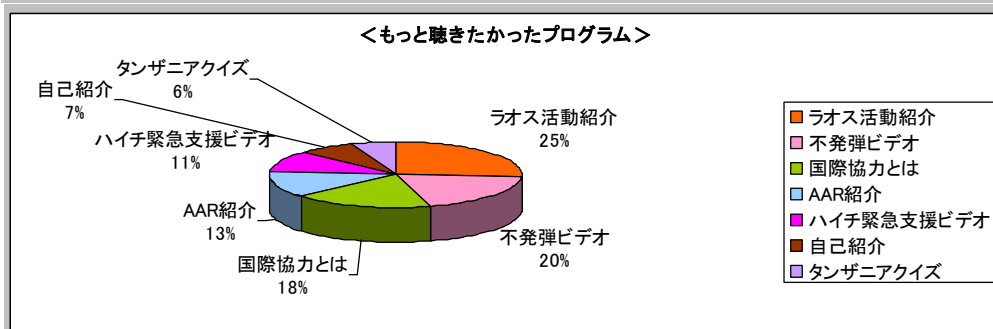
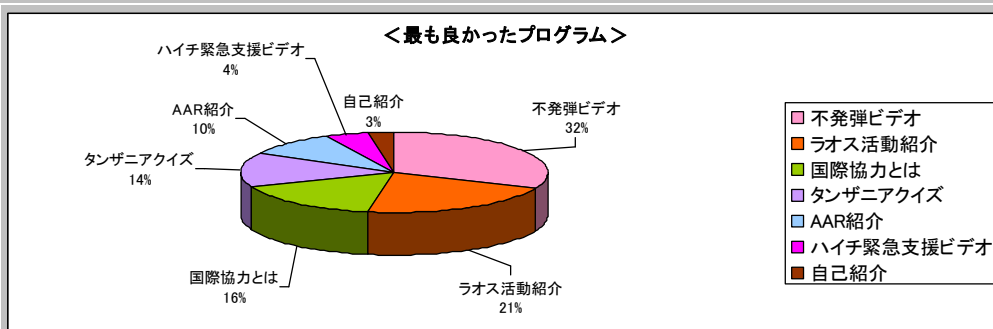
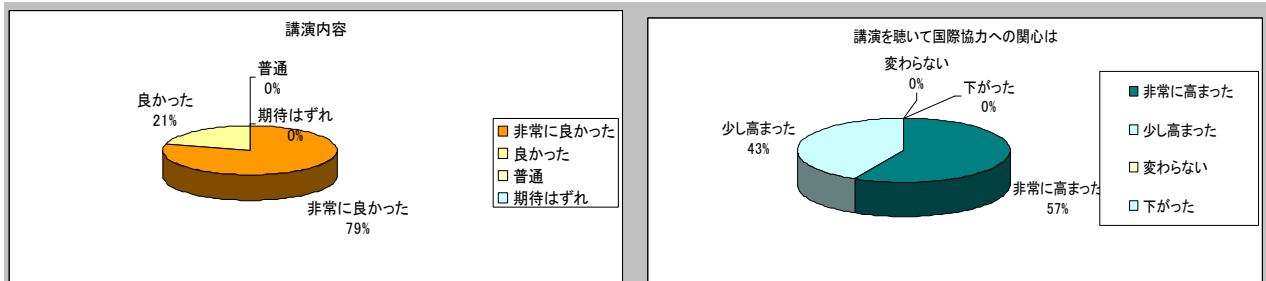
はじめに自己紹介として、国際協力に興味を持ったきっかけや、NGOの海外駐在員の職に就くまでの道のお話をした。続いて、現在活動しているラオス・シェンクワン県における不発弾被害者支援事業について、写真やクイズ、動画を交えながら紹介。ベトナム戦争の負の遺産である不発弾がいかに関係しているのか、残された不発弾の数や被害状況をお話した。続いて、そうした現状を背景に当会が行っている、村人や看護師に対する事故時の応急処置の研修などの活動を紹介した。

後半は、講演当日からちょうど1年半前に起きたハイチ大地震と、東日本大震災における当会の緊急支援の活動を紹介した。最後に、途上国に暮らしながら国際協力の仕事に携わっている立場から、私が考える国際協力のあり方、そして生徒ひとりひとりができる国際協力についてお話した。

8. 所感

講演後、先生方の評価や生徒全員に記入してもらったアンケート結果で、101人中101人全員が国際協力への関心が高まったと回答し、101人中97人が次回も講演を聴きたいと回答したことから、想像以上の反応があったことを非常に嬉しく思っている。国際教養科に所属し常日頃から国際関係を学んでいるからか、生徒の反応が良く、大半の生徒が目や手を輝かせながら耳を傾けてくれた。またアンケートには多くの生徒が「熱意が伝わった・感動した・心を打たれた」と記述する等、当方のメッセージがしっかり伝わったように感じる。また最後の質疑応答では、「国際協力分野の職業は他にどんなものがあるのか」「NGOスタッフになるにはどうしたらよいか」「NGOスタッフの生活や待遇は」といった質問が多く寄せられた。国際協力への関心を増やすことに加え、自身の将来像や職業観を広げられたことを実感できた。

〈講演後のアンケート調査〉



アンケート(講演の感想)

- ・ ラオスにはいまだ不発弾が多く残っていて安全になるには100年以上かかると知って、世界には危険な国々がたくさんあって、日本だけを見てはだめだと思いました。(17歳)
- ・ 今まで自分が知っていると思っていたことが実は何も知っていなかったことが分かりました。私達は毎日こんな風に暮らしている一方、ラオスの人々は毎日ビクビクしながら暮らしていることに本当に驚きました。世界のことをよく知ることが大切だと分かりました。(17歳)
- ・ テレビを通してだけで聞いていた世界の困っている人達の状況が、講演を聞いてより身近に感じました。高校生の私

には何もできないと思っていましたが、マンスリーサポーター制度があることを知り 500 円という金額から支援することができるので今すぐ始めてみようと思いました。(18 歳)

- ・ 国際協力をするのはすごく決意のいることで甘くないことだと思うけど、何もしないよりは何か行動したら幸せが増えると思うので、自分も何か行動したいと思いました。(17 歳)
- ・ 私も、困っている人を助けるために、隣の人のことを考え、直接届く支援、必要とされる支援をしていきたいと思った。(17 歳)
- ・ 貧しい国へ行って人々を支援することは多くの人から感謝されるのだろうなと思ってたし、感謝されることでやりがいも感じられるのだと思っていました。でも実際感謝されることはあまりなく、現地の人たちと直接話をして交流すること自体がやりがいだと語られていたので、心から彼らの幸せを願っているんだなあと思いました。私も募金などから参加してみることで考え方が変わったらいいなと思いました。(19 歳)

講演を行う報告者



平成 23 年 7 月 22 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人
日本国際ボランティアセンター
清水 俊弘

NGO相談員による出張サービス実施のご報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

記

1. 企画名：
 - ① 「南部スーダン独立と、揺れ動くスーダン情勢～現地からの報告～」【講演】
 - ② 「北海道国際協力フェスタ」でのパネルトーク「国際協力を仕事に」【セミナー】
 - ③ 「北海道国際協力フェスタ」での講演「世界でいちばん新しい国、南スーダンの誕生と国際協力の役割」【講演】
2. 出張者氏名： 今井高樹（JVC スーダン現地代表）
3. 依頼元／主催団体名等： 北海道NGOネットワーク協議会
4. 実施日時： 上記① 平成 23 年 7 月 16 日 14 時 00 分 ～ 16 時 00 分
実施場所：さっぽろ自由学校「遊」（札幌市中央区南 1 条西 5 丁目）
上記②③ 平成 23 年 7 月 17 日 12 時 10 分 ～ 14 時 30 分
実施場所：厚別区市民中央交流広場（札幌市厚別区厚別中央 1-5）
5. 実施内容と効果・所感：

① 「南スーダン独立と、揺れ動くスーダン情勢～現地からの報告～」

【内容】

「北海道国際協力フェスタ」のプレイベントとしての講演会。7 月 9 日に独立した「南スーダン」と、南部分離後の「(北部) スーダン」について、日本のマスコミ報道では触れられなかった点を中心に、内戦の背景、今後の課題と展望、国際社会の役割などを伝え、通常アフリカ情勢に触れることの少ない一般の参加者の理解を促した。

【参加者】 15 名

【参加者からの質問】

- ・「南スーダンには産業が何もない」とテレビで報道されていたが、産業がなければ生活は成り立たないのでは？
- ・国連から日本が要請されたとされる「南スーダンへの自衛隊派遣」は必要なのか？
- ・石油収入を巡る争いが報道されているが、南北紛争の再燃の可能性はあるのか？
- ・スーダンの宗教分布と内戦との関連性はあるのか？

【効果・所感】



スーダン情勢の理解を深めることで、マスコミ報道も含めた「祝賀ムード」の陰で南スーダン独立が様々な問題を積み残していることを認識する場となった。その上で、日本がどのような支援をすべきかを参加者が考える契機になった。

② パネルトーク「国際協力を仕事に」

【内容】

道内の国際協力への理解と関心を促進するためのイベント「北海道国際協力フェスタ」の中で、高校生などの若い世代を対象に、国際協力を携わる仕事の実際、赴任先での生活の様子、求められる能力や資質について伝えた。他のパネリストは JICA 職員、札幌に拠点を置く国際協力 NGO、フェアトレードショップ経営者。

【参加者】 およそ 50 名

【参加者からの質問】

- ・ 国際協力を仕事にしようと思った理由は？
- ・ JICA など公的機関と NGO の仕事はどう違うのか？
- ・ 赴任先でどんな家に住み、何を食べているのか？
- ・ 現地での安全管理はどのように行っているのか？

【効果・所感】

海外に活動現場を持つ NGO が少ない北海道でのイベントにおいて、海外駐在員としての経験を直接に伝えることができ意義深かった。また、パネリストとして立場や背景が異なる 4 人が登壇したことで、国際協力を仕事にするにも多様な形態があることを参加者に認識していただけた。



③ 講演「世界でいちばん新しい国、南スーダンの誕生と国際協力の役割」

【内容】

2005 年の内戦終結から独立国家誕生まで、難民帰還や復興において国際社会の支援がどのような役割を果たしてきたのか、今後何を求められているのかを伝えた。

【参加者】 およそ 50 名

【参加者の質問】

- ・ 北部の石油収入が減少することで市民生活への影響は？
- ・ 国際社会は南部ばかり支援してきたようだが、日本はどうか？
- ・ 紛争において、武器はどこから流れてくるのか？

【効果・所感】

内戦終結後、日本を含めた国際社会の支援の重要性を理解していただいたとともに、支援が一方（この場合は南部）に偏重することによる問題点についても、参加者に意識化されたと考える。

なお、本項写真で示している説明用フリップボードは、本件会場でプロジェクタが使えないため、特に作成したものである。



以上

平成 23 年 7 月 22 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人
日本国際ボランティアセンター
清水 俊弘

NGO相談員による出張サービス実施のご報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

記

1. 基本情報：

開催日時：平成 23 年 7 月 19 日 (火) **場所：**中京大学 名古屋キャンパス **参加人数：**約 300 名
平成 23 年 7 月 20 日 (水)

講師：下田寛典(緊急支援担当)

講演テーマ：「国際協力 NGO は平和を生み出すことができるか？」

2. 講演の目的：

国際協力や NGO について関心をもつ学生および教職員を対象に、とくに、平和を脅かす要因と、平和を生み出し支える活動、また NGO の課題について報告する。報告に基づき、学生から質問や相談を受け、国際協力分野に関わることを考えている学生たちに具体的な情報を提供する。

3. 講演の内容：

●平成 23 年 7 月 19 日 13 時 00 分～14 時 40 分の回

冒頭に東日本大震災における JVC の取組みを紹介し、さらに過去に関わった海外での自然災害に対する支援活動の事例を紹介した。日本国内でも海外でも地元の人々の復興への努力を支える考え方を伝え、地元住民を巻き込んで復興計画をつくるプロセスの重要性を示した。他の援助機関が住民の声や地元の気候・風習・文化を軽視し、スピードを重視した支援活動をしたことで、住民にとって公正な支援とならずに住民間の軋轢が生じてしまった事例を紹介し、支援を行うことで新たな火種を残さないように心配りをすることの重要性を説明した。

質疑応答：

Q. 海外の援助機関が住民軽視の援助をしたという事例報告があったが、それでも尚、海外の NGO が関わることのメリットは何か？また、特に「日本」であることでのメリットはあるか？

A. 海外の援助機関が持つ限られた財源も現地からすれば大きな金額になる。そうした資金面でのアドバンテージが大きい。現地の NGO が取組みづらい活動もある。たとえば、当該国での不法労働者の被災者への支援は、現地 NGO が支援しづらかったりする。支援がなかなか届きづらい人々へ手を差し伸べやすい、というメリットもあるだろう。現地から見ると日本は災害大国で数々の自然災害から立ち直ってきた経験が豊富とのイメージがある。特に復興のプロセスにおいては日本が行ってきた「防災」の取組みに対する現地の期待は大きいと感じる。

●平成 23 年 7 月 20 日 13 時 00 分～14 時 40 分の回

JVC のアフガニスタンでの取組みとタイにおけるビルマ人移住者の問題を紹介した。アフガニスタンでは、日本政府の自衛隊インド洋派遣がアフガニスタン市民にどのように受け止められたのか、市民の声を上げた。アフガニスタンでは軍による人道支援が実施されている現状を伝え、軍隊の存在が時として現地の治安情勢を脅かす可能性があること、アフガニスタン市民にとって民間の NGO 支援が軍の人道支援と混同される危険性があることを伝えた。

タイの事例では、なぜタイにビルマ人の移住者が流入してくるのかというメカニズムをタイとミャンマーの経済格差、ミャンマー国内の政治体制に触れながら解説した。タイの中で困難な状況に置かれているビルマ人移住者の状況が改善されるためには、現場での取組みもさることながら、本国ミャンマーに対する政策提言活動も重要であることを伝えた。

質疑応答：

Q. 自衛隊の話が出たが、今回の東日本大震災で自衛隊の活躍は目覚しかった。海外でも自衛隊派遣をして災害救援にあたれば、効果的な活動ができるのではないかと？海外支援の現場でも軍隊は必要なのでは？

A. たしかに東日本大震災で自衛隊は活躍したが、自衛隊でなければ実施できなかった活動なのかどうかは精査が必要だと思う。消防士が持つ能力でも対応できたのかもしれない。自衛隊が軍隊であるかどうかは多くの議論が為されているが、海外の市民の視点からはやはり軍隊として見られていて、救援隊ではない。今回の震災の実績を以ってすぐに海外派遣を容認できるかどうか、に対しては個人的には慎重な議論が必要だと考えている。

Q. 心理学を専攻している。NGO で働くのに心理学が役立つか？

A. 紛争地に限らず、困難な状況におかれている人々の現場に身を置くと、心のケアが必要だと感じるケースは多い。現地では臨床心理士が活動して心のケアにあたっている。NGO スタッフの条件で、調整能力やコミュニケーション力は概ね必須能力とされるが、ほかにそうした専門的な知識・技術があると活動地で役立つと思う。

4. 所感：

台風6号が迫りくる中でも、両講演あわせて300名集まってくださったことに中京大学の学生の関心の高さが伺えた。中でも直近の東日本大震災への関心が高かったように思う。担当された教員からも「現場の住民の声に基づいた話には説得力がある」と評価を得た。

以上



平成 23 年 8 月 9 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名) (特活) 横浜 NGO 連絡会

NGO 相談員による出張サービス実施企画について

NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり企画実施いたしましたので報告いたします。

記

1. 企画名：「港南台国際協力まつり 2011」における相談対応サービス
2. 出張者氏名：小俣典之
3. 依頼元／主催団体名等：
主催：(特活) 横浜 NGO 連絡会・港南台タウンカフェ
協力：横浜港南台商店会・宮ヶ谷町内会
4. 実施日時：平成 23 年 7 月 30 日 15 時 30 分～20 時 00 分
平成 23 年 7 月 31 日 15 時 30 分～20 時 00 分
5. 実施場所：港南台テント村 (JR 港南台駅徒歩 1 分)
6. 実施内容
 - ① NGO 相談ブースの設置
「第 5 回港南台国際協力まつり 2011」会場内のテントブースに NGO 相談ブースを設置し、NGO 相談を実施した。
 - ②内容
地域密着型の国際協力イベントで NGO 相談を実施することにより地域の相談ニーズに答えた。また、国際協力に関わる NGO の活動や ODA についての理解促進を図った。
ブース内で NGO 相談員の広報チラシを配布し、NGO 相談員制度の普及 PR を行った。
 - ③集客人数
このイベント全体への来場者数：1,400 人 (主催者発表、実測値)
来場者層：一般地域住民 (子どもを含む)、出展団体スタッフ、近隣高等学校生徒・教員
商店会・町内会関係者、市民ボランティア
 - ④相談対応件数
7 月 30 日：8 件
7 月 31 日：6 件
7. 所感及び効果等
港南台国際協力まつりは、港南台地域を中心に活動する国際協力 NGO、国際交流 NPO と地元商店会との共催にて創設されたイベントであり、本年が開催 5 年目であった。規模は小さいが、地元深く溶

け込んだ国際協力イベントとしてすっかり定着してきた感がある。大型イベントは他にもあるが、地域と NGO の強い連携の上で成り立っているイベントとしては横浜、神奈川でも特徴あるイベントの一つであると言える。

このイベントの中で NGO 相談を実施することにより、地域住民のニーズに答えることができたことは意義あることだと考えられる。国際協力に初めて触れる地域住民も多い中で高度な質問はあまりないものの、生活の中で国際協力を考えたり、復興支援と国際協力の関係に悩んだり不明点を感じている地域住民の疑問に答え、国際協力への理解促進をアシストできたのではないかと考えられる。今後も地域に密着しながらこのイベントが発展することを NGO 相談員として支援すると共にイベントの場で NGO 相談業務を継続的に実施していくことで地域の国際協力への理解を必ずや促進するものと思われる。

8. 写真資料





以上

平成23年8月6日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人ソムニード
NGO相談員 末武由貴子

NGO相談員による出張サービス実施報告書

NGO相談員による出張サービスを下記の通り実施しましたので報告致します。

記

1. 企画名：JICA中部 国際協力推進員会議（NGO相談員の役割と連携について）

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

2. 出張者氏名：末武由貴子（（認定NPO法人）ソムニード）

門田一美（（特活）名古屋NGOセンター）

藤井広重（（認定NPO法人）アジア日本相互交流センター）

3. 依頼元：独立行政法人国際協力機構（JICA）中部国際センター

4. 実施日時：平成23年7月13日（水）16：00～17：15

5. 実施場所：中部国際センター（愛知県名古屋市中村区平池町4丁目60-7）

6. 参加者数：7名 国際協力推進員（愛知県、名古屋市、岐阜県、三重県、静岡県、浜松市）JICA職員

7. 相談件数：14件

8. 企画概要

国際協力推進員月例会議にて、中部ブロック受託3団体が、以下の内容で出張サービスを実施した。

- ・NGO相談員の役割と活動についての説明
- ・NGO相談員と国際協力推進員、JICA中部との連携の可能性についての協議等

本出張サービスの実施目的は、

- ・NGO相談員、国際協力推進員、JICA中部間における、それぞれの役割と特徴を活かした連携を創り出すための基盤をつくることである。

9. 実施内容

- ・NGO相談員の活動と役割について説明した。
- ・中部ブロックNGO相談員各受託団体の特徴や特色について説明した。
- ・JICA中部と各推進員の取り組みを聞き、JICA中部と推進員及びNGO相談員の連携について協議した。
- ・各県でのNGO相談員の広報の連携について協議した。

10. 所感及び効果

NGO相談員側からNGO相談員の役割や各団体の特徴、活用事例等を伝えるだけでなく、昨年度のNGO相談員と国際協力推進員の連携の効果についての確認を行い、本年度の連携について、各県ごとに具体的に協議することができた。その結果、出張相談を活用し、本年度も協力隊募集説明会における連携を行うことを確認するとともに、新規に静岡県の国際協推進員との連携で、静岡県国際交流フェスティバル【なんとかしなきゃ！プロジェクト トークショー～身近な国際協力～】での出張相談に繋がった。

国際協力推進員は、各県において行政、教育機関、国際協力関係団体等の幅広いネットワークをもっている。今回の会議を通じて、NGO相談員と国際協力推進員の連携が促進され、両事業の相乗効果をもたらすことで、更なる地域のNGO活動の活性化が期待される。

国際協力推進員からは多くのコメントを頂いた。一部、以下に抜粋する。

「NGO相談員はNGOしか利用できないものだと思っていたが、学生や行政、一般の方へのニーズにも対応できる制度であることが分かったので、今後広く周知していきたい。」

「(来場者のアンケート、及び三重県国際室と三重大学のコメントによると)昨年度、ICAN(アジア日本相互交流センター)さんに依頼した【国際理解セミナー】がとても好評であったため、今年度も依頼したいと考えていた。本日、想像以上に活用の可能性があると感じたので、自分の業務だけでなく、他団体などにも積極的に紹介したい。3団体の方と直接会ってお話しができて本当によかった。」

以上



平成 23 年 8 月 8 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク 印

NGO相談員による出張サービス実施報告書

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、ご報告いたします。

記

1. 企画名：NGOネットワーク特別講演
【形態：講演・その他(展示・全体コーディネート)】
2. 出張者氏名：竹内よし子(特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク)
3. 依頼元／主催団体名等：CCWA愛媛の会
4. 実施日時：2011年7月18日(月)13:00～16:30
5. 実施場所：愛媛大学総合情報メディアセンターメディアホール(松山市文京町3)

6. 実施の概要

18年間、ネパールの住民から「OKバジ」の呼称で親しまれてきた垣見一雅氏独自の支援方法は、「現場優先」、そして、地域に根ざす「住民主体型」である。この度、CCWA愛媛の会より「垣見氏を招き、講演会を開催したいが協力してもらいたい」という相談を受け、愛媛とネパールのつながりのある団体、JICA、愛媛大学とともにヨコのネットワーク構築を図りつつ講演会を開催し、今後のネパール支援の在り方をさまざまな角度で探るパネルディスカッションを行うこととした。

また、NGO相談員が本件講演会のコーディネート役を積極的に担うことで、地元のNGOに相談員の役割をより深く理解・認識してもらう機会とし、地域に根ざすNGOの国際協力活動の一般市民への理解を深める機会となった。本年が国際森林年であること、環境・バイオマスエネルギー問題との関連がある内容なので、国際協力に関心がある層だけではなく、環境・エネルギー問題に興味がある市民層へのアプローチ

の一助となるよう企画することができた。

【第1部】13:00～14:00

基調講演:OKバジ(垣見一雅氏)

演題:バイオガス燃料が森を守り、山で生活する人々の暮らしを守る

【第2部】14:00～15:30

パネルディスカッション

テーマ:ネパールの持続可能な社会づくりのために～今私たちにできること～

パネリスト:矢田部龍一(愛媛大学国際連携推進機構長)、池田郁江(CCWA愛媛の会代表)、田中勝利(岩村昇博士協力会代表)、飯塚健一郎(JICAネパール事務所)

コーディネーター:竹内よし子(NGO相談員、えひめグローバルネットワーク代表)

【第3部】15:30～ 意見交換・交流会

本企画では、愛媛県内のネパール支援を行う団体のネットワーク構築を目的とし、講演会の企画～実施、報告書作成等のコーディネートに協力した。愛媛とネパールのつながりはさまざまな団体があるにも関わらず、ヨコのつながりがなく、今までお互いを知る機会がなかった。今回、第1回目の場をつくるアレンジに協力し、ネパールのために活動する団体同士のビジョンを共有することで、お互いが可能な範囲でネットワークするメリットについて知ってもらう機会を創出することができた。

以上



(特活) NGO 福岡ネットワーク : NGO 出張相談報告書 (平成 23 年 7 月)

(ア) 出張相談企画名・実施日時・場所

企画名 : あすみん交流会

依頼元／主催団体名 : 福岡市 NPO・ボランティア交流センター「あすみん」

実施日時 : 2011 (平成 23) 年 7 月 23 日 (土) 19:00~21:00

場所 : 福岡市 NPO・ボランティア交流センター「あすみん」セミナールーム

福岡市中央区大名 2 丁目 6 番 46 号福岡市立青年センター5F

出張者 : 本田正之 (NGO 福岡ネットワーク職員)

(イ) 実施内容

NPO・NGO 活動やボランティアに参加してみたい人のための交流会であるが、7 月は「国際×東日本大震災」をテーマに、NGO が取り組む国際協力活動と震災支援の構造やボランティア活動における心構え等は同じであることを「難民のワークショップ」と個別の相談対応を通して学んでいただいた。

(ウ) 集客人数または相談対応件数

参加者 : 12 人

(エ) 所感及び効果等

参加者は、どちらかといえば国際協力というよりボランティア活動に関心がある人や、すでにボランティアに取り組んでいるという人の参加が多く見られた。そのため、相手を思いやる気持ちや相手の身になって活動をするというボランティア活動にも共通する視点を取り入れつつ、なぜ NGO は国内の震災支援に取り組み、どのように支援するのかということ学んでいただいた。

普段は国際協力活動への関心が低い参加者も、国際協力を震災・ボランティアというキーワードから紐解いていく構成であったため、より具体的にイメージすることができ、深い理解へと繋がったようであった。

後半のフリートークではあらためて NGO や当団体の活動の説明を行い、また途上国での国際協力活動も今回の震災支援も基本 (オーナーシップやニーズ・オリエンテッド、現地 NPO/組織などのキャパシティ・ビルディング) に変わりはないことを学んでいただくことで、NGO や NGO 活動への理解を得られることができた有意義な会であった。



NPO センター職員によるレクチャー



ワークショップの様子